

平成29年度

団体名	横枕青年団 未来会	あいあい食堂(H28～)	こどものまちUST実行委員会
所在地	那須烏山市	宇都宮市	宇都宮市
事業の概要	<p>(短期/事業規模:153,882円) 【構成員】 代表:掛札研輔</p> <p>【事業名】 ど田舎創生 横枕青年団 ど田舎祭り</p> <p>【事業目的・実績】 ○横枕地区全世帯を対象としたイベントを開催し、地域住民の交流の場を創出したり、地場産食材を使用した模擬店を出店したりすることで、地域の魅力を再発見・再発信し地域への愛着形成を図る。</p> <p>・10月28日(土):横枕青年団 ど田舎祭り (みつわ工房GH駐車場) ・来場者 約200名</p> <p>【事業の効果】 ・地域の若者が参画し、次世代リーダーの育成と新しい青年団活動の体制づくり強化につながった。 ・地域の育成会と連携し、地域の子どもたちを対象としたイベントを実施することで、地域への愛着形成のきっかけをつくることのできた。 (「いつまでもここに住んでいたい」、「また戻ってきたい」と思える地域づくりにつなげることができた。)</p>	<p>(中・長期/事業規模:87,279円) 【構成員】 代表:松田悠希</p> <p>【事業名】 コミュニティ食堂</p> <p>【事業目的・実績】 ○20代学生や社会人を対象として、「食」という身近なテーマから異文化に触れたり、公的機関・団体等の体験報告会に参加したりしながら、青少年が国際交流への興味を高めるきっかけを作る。</p> <p>・毎月1回開催(8月からは2回開催)</p> <p>【事業の効果】 ・昨年度の事業実施における利用者からの声を反映して、開催回数を月2回に増やし、利用促進を図ることができた。 ・回数増加直後は、大人の利用者しかなかったが、広報活動を工夫し、親子での利用を増加させることができた。</p>	<p>(短期/事業規模:126,488円) 【構成員】 代表:落合安純</p> <p>【事業名】 こどものまちUST</p> <p>【事業目的・実績】 ○異年齢、他校の子どもたち同士が、大人とのかかわりを通して、社会の仕組みを学ぶ</p> <p>・6月:「こどものまちづくり隊」募集・近隣小中学校・高校への広報(学校数7校) ・7月:実行委員会開催 8月～1月:広報活動・実行委員会開催 2月17(土)・18(日):こどものまちUST (宇都宮大学学生会館2F)</p> <p>【事業の効果】 ・2日間で130名(17日:67名、18日:63名) ・異年齢、他校の子どもたち同士、大人のかかわりにより、参加者が新たな知見を得たり、視野を広げたりすることができた。 ・子どもたち自身が運営に携わることにより、より深く社会のしくみを自主的・自律的に理解することができた。</p>

団体名	一般社団法人えんがお	チャレンジing SHS(South High school)	水棲む森
所在地	大田原市	那須塩原市	日光市
事業の概要	<p>(中・長期/事業規模:328,575円) 【構成員】 代表:濱野将行</p> <p>【事業名】 市民参加型支え合いプロジェクト</p> <p>【事業目的・実績】 ○地域の若者を中心に、高齢者の「介護予防」や「孤立化予防」とその解消に向けた仕組みづくりと実践を行う。</p> <p>・7月から1月にかけて、週に1～2回程度の生活支援</p> <p>【事業の効果】 ・依頼件数77件、会話時間2640分(44時間) ボランティア参加者 延べ215人 ・高齢者の困りごとの中で、介護保険で対応できないものに対して、学生ボランティアと地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携して対応できた。 ・地域商工会とつながり、地域課題であった空き家を改修・有効活用し、事業を推進した。 ・高齢者を支援する仕組みを整えることができた。</p>	<p>(短期/事業規模:162,854円) 【構成員】 代表:林 祐亜</p> <p>【事業名】 チャレンジing (South High School)</p> <p>【事業目的・実績】 ○地元事業の夏祭りに高校生が参画し、多世代との交流とコミュニケーション力の向上を図るとともに、持続可能なまちづくりを目指す。</p> <p>・8月20日(土):夏祭り(埼玉小学校校庭)</p> <p>【事業の効果】 ・少子化が進み、子ども育成会活動に影響が出ている埼玉地区において、子どもたちを対象としてイベントを実施し、地域を盛り上げることができた。 ・イベントを通して、世代間交流が促進され、新たな人のつながりが生まれた。 ・することができた。</p>	<p>(短期/事業規模:117,250円) 【構成員】 代表:橋本春加</p> <p>【事業名】 フォレストスクール</p> <p>【事業目的・実績】 ○地元小学生を対象に、人工林の山が荒廃している現状を知り、人工林を守る取組として「伐って使って、植える」という循環を大切にすることや、地域木材資源の利用による環境貢献と地域産業</p> <p>・12月18日:伐採製材見学ツアー (日光市城山山内) (株式会社大和木材工場)</p> <p>【事業の効果】 ・参加者17名 ・木が伐り倒される様子を目の前で見学し、その丸太がどのような手順で加工されていくのかを参加者が理解することで、自然に目を向けるきっかけをつくることのできた。 ・実際の作業実演と簡単な木工体験教室を実施することで、参加者が木材に触れ、環境への意識を高める機会をつくることのできた。</p>